

氏名： 小谷 眞男 (KOTANI Masao)  
 所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
 職名： 准教授  
 学位： 学術修士 (1989 東京大学)  
 専門分野： 基礎法学 (法社会学、比較法文化史、イタリア法文化論)  
 sociology of law and comparative legal culture、especially of Italy  
 URL： [http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher\\_Kotani.html](http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Kotani.html)  
 E-mail： kotani.masao@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

イタリア／法文化／比較研究／社会福祉／文学  
 Italy / legal culture / comparative study / social welfare / literature

#### ◆主要業績

総数 (2) 件

- ・『世界の社会福祉年鑑 2008』(編集代表：萩原康生・松村祥子・宇佐見耕一・後藤玲子、編集委員：岡伸一・金子光一・小谷眞男・原島博、旬報社、2008 年 11 月)  
 全体の編集委員となったほか、第 2 部のなかの「イタリア」の一部 (社会福祉の現状 I「家族・児童の福祉」) を分担執筆した。
- ・『現代イタリアの社会保障：ユニバーサリズムを越えて』小島晴洋・小谷眞男・鈴木桂樹・田中夏子・中益陽子・宮崎理枝、旬報社、2009 年 2 月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- 1) 名誉と恥をめぐるイタリア法文化についての比較史的研究の包括的再検討作業に入った。
- 2) 現代イタリアの社会福祉についての共同研究を進め、2007 年におけるイタリアの社会福祉の動向につき『世界の社会福祉年鑑 2008』に発表した。そして、現地調査や研究交流などを含む今までの共同研究の蓄積を総括する単行書 (写真) を刊行した。
- 3) 法と文学をめぐる試行的研究の成果をイタリア各地の大学でおこなった日伊比較法文化セミナー (写真) で活用し、新しい教養法学の構想を現地の教員と共同で検討した。
- 4) イタリア重罪院陪審法廷および陪審団評議の特別傍聴をおこない、刑事裁判への市民参加の比較史的研究をおこなった。また、イタリアの刑務所内でおこなわれた受刑者演劇の特別見学許可を得、刑事政策の国際的最前線に触れた。
- 5) 近代刑事法学の原点 C.Beccaria、"Dei delitti e delle pene" (『犯罪と刑罰について』、1766 年版) を原典イタリア語校訂版から日本語に全訳 (訳注付き) する作業に着手した。
- 1) Research on the Italian legal culture, especially from the historical viewpoint
- 2) Research on the social welfare of the contemporary Italy
- 3) Explore the themes of "law and literature", especially on the greek tragedy and Chushingura.
- 4) Research on the criminal trial in Italy
- 5) Translation of Beccaria's masterpiece in Japanese



## ◆教育内容 / Educational Pursuits

生活法学演習 I・II、生活法学総論、法と文学、比較法文化論、生活法社会論等の諸科目において、生活世界と法システムの関係および法文化をめぐる諸問題について、さまざまな角度から、法社会的に検討した。

Lectures and seminars on the sociology of law and the comparative legal cultures.

## ◆研究計画

- 1) イタリア法文化研究を比較法文化論一般に展開させていく構想を温めている。
- 2) 法と文学についての研究、法のナラティブ的理解という Vico 的方法論の枠組みを活用して、21 世紀の市民的教養としての法学教育のための一風変わった法学入門書を執筆したいと考えている。
- 3) ベッカリーア『犯罪と刑罰について』の完全翻訳版の完成・公刊。ベッカリーアの市民社会論の研究。
- 4) マリオ・パガーノ『刑法典の原理』『刑事訴訟論考』の翻訳作業。近現代イタリア刑事法学史の研究。
- 5) イタリア司法統計史についての調査研究
- 6) イタリア社会福祉についてのコムーネレベルでのケーススタディ

## ◆メッセージ

一所不住、雲水行脚、必ず樹下石上を宿とす。島国を脱出し、異国の土を踏もう。世界は広く、かつ深い。

